



しらかわ 報 廣

人口の動き

—9月1日現在—

男 5,831 (-3)

女 5,997 (+7)

計 11,828 (+4)

世帯数 2,590 (-2)

()内は前月との比較

発行/川西町役場 編集/企画室 定価/1部5円 印刷/白南風社



お盆の成人式 ずっと5月に挙げてきた成人式も、婦人会の要望がきっかけとなってことしからは8月に行なうことになりました。その当日(15日)、お盆という時節から、前年を100人以上も上回る250人が出席して例のない盛大さでした。

町政コーナー

気まぐれで警戒型だということしの天候に対する懸念が、八月の集中豪雨という形で見舞われた。川西を取り巻く各地に甚大な被害をもたらしたが、幸いにしてその中心は町を避けたため、これらの市町村に比べれば災害は軽く済んだほうである。それでも八月四日から十二日までに降った雨量は三九九ミリで、過去五十年間における八月の平均雨量の二、五倍に達している。特に山野田方面で十六戸の浸水家屋を出した九日は一日で一七四ミリとこの月の平均総雨量を上まわる大雨であった。これらの雨による被害は、建物、道路、農地、農作物等あわせて一億をこえる額である。お盆明けの天候は比較的順調であるけれども収穫期にはいつて果たしてどうなるか。倒伏や穂イモチも相当見受けられることしの稲作である。

八月四日から十二日までに降った雨量は三九九ミリで、過去五十年間における八月の平均雨量の二、五倍に達している。特に山野田方面で十六戸の浸水家屋を出した九日は一日で一七四ミリとこの月の平均総雨量を上まわる大雨であった。これらの雨による被害は、建物、道路、農地、農作物等あわせて一億をこえる額である。お盆明けの天候は比較的順調であるけれども収穫期にはいつて果たしてどうなるか。倒伏や穂イモチも相当見受けられることしの稲作である。

行事

九月

(一日から)三十日まで、野人一掃運動。

十四日 橋地区敬老会(午前十一時から、会場は橋小学校)。

十五日 千手忠魂碑除幕式。敬老の日、老人福祉週間はじまる。

十六日 産業委員会(午前九時から)

十月

一日 赤い羽根共同募金運動はじまる(十二月末まで)、労働衛生週間はじまる。

十日 体育の日、目の愛護デー(役場で)。

十九日 町議会定例会招集、補正予算などを審議するほか、一般質問も予定している。

二十三日 秋分の日

議長に和久井氏を再選

任期を分けた あいつぎ招集 臨時議会

生まれ変わった議会の任期発生の日、九月一日に招集された第七回町議会臨時議会で、法目の議会構成が決まった。また、これより前の八月二十二日には、改選前の議会としては任期最後の第六回臨時議会が開かれ、継続審査分の請願一つを含む六の案件を審議してその幕を閉じた。

監査委員に

小川清次氏

一日の第七回臨時議会は、二十二人の全出席のうちに、年長議員である小林与作臨時議長の司会の

もとに始まり、ただちに議長選挙を投票によって行なった。

しかし、その結果は、平野圭二氏と和久井精一氏がともに十一票で同数となったため、しばらく休憩し、再開後、公選法に基づく抽選の方法によって和久井氏を当選人と決定した。

総務文教委員会

小林与作、○須蔵寛蔵、平野圭二、○小林申一、高橋善治、登坂敬恒、上村忠雄、(和久井議長の委員辞退による欠員一)。

産業経済委員会

長谷川福松、○押六二吉、村山義雄、数藤 亘、水落達一、○中村金作、水品正一郎。

土木厚生委員会

滋野一郎、小川清次、高橋弥太郎、登坂 茂、市川富二、○田中 与三郎、○杉生昌平。

このほか、議会人事としては常任委員の選任と、各常任委員会ごととに互選した正副委員長を、あらためて議会の



▲今回で3期目の議長席につく和久井精一氏



小林与副議長

は別に、教育委員の任命について、九月十五日で任期満了となる杉

本春三郎氏の再任、七月末辞職した水品正一郎委員の後任として馬場ト輔氏の任命におのれの可成り損害評議会委員十三人の選任も同意、国保の給付準備基金の設置条例制定も原案どおり可決した。



小林申総文委員長



中村産経委員長



田中土木委員長

第六回臨時議会 常任委の委員定数を削減

第六回町議会臨時議会で審議決定したのは次の六件である。

① 川西町議会常任委員会及び特

別委員会条例の一部改正。

議員定数の削減によって、常任委員会の委員定数を改める必要が生じたので、議員提案で総文委員会八人(いままでは九人)、産経委員会七人(同九人)、土木委員会七人(同八人)の構成にしようとするもの。原案どおり可決。

② 一般会計補正予算

二回目の補正で、歳入歳出とも七百五十八万一千円を追加し、予算総額を三億四千二百八十三万三千円とするもの。原案どおり可決

歳入は、地方交付税四百八十二万六千円、国庫支出金百八十八万五千円、寄付金八十七万七千円をそれぞれ追加。歳出では、町道(山手線ほか)の改良に約三百四十万円、学校の施設関係約二百五十万円などが追加の目だった点である。

いままでに例をみない参列者でにぎわった成人式の費用も、今回約九万円を補正増し、ほかに、仙田へき地出張診療所会計への繰り出しが衛生費に盛り込まれている。

③ 川西町へき地出張診療所設置条例の制定

④ 同へき地出張診療所特別会計条例の制定

⑤ 同出張診療所の四十四年度特別会計予算

以上の三件は、いずれも九月一日からスタートする仙田へき地出張診療所(中仙田)関係の議案で原案どおり可決された。(広報スケット参照)

⑥ 上野小学校水泳プール建設に関する請願

前回から継続審査となっていたもので、所管の総文委員長が審査報告をしたのを採択と決定した。



⑧ 月末、新潟市で迎えた全国広報研究大会、坂西志保さんの記念講演からひとつ。アメリカの未来学会が電算機で資料を分析したところ、二十世紀は日本の世紀であり二十二年に世界のトップの座にあるのは日本とてたそうです。ただ、これには同学会副会長のみつつの警告つきといえます。その警告とは、再軍備とくに核装備をしないなら、勤労性をもっと生産に結びつけることができるなら、慢心しないから、でした。

⑨ や九月かというところ、この月は、健康について「ガン征圧月間」「精神薄弱者愛護月間」「薬毒禍撲滅運動」「愛の血液助け合い運動」などが、いずれも一日から三十日まで。また二十四日から「結核予防週間」ですとかく健康については、ふたんクノイロ、ぞか無関心のどちらから...?といわれているように、日常の適正な管理や検査はなおざりにされています。何か重大な病気にでもかからなければ、なかなかその気にならないといふまじく世を一掃してください。食欲の秋とはいいながら、腹も身の内、内蔵に急な重労働をさせてはいけません。

年金で老後の楽しい生活を

最近、とみに老人福祉の問題が關心を集めています。

これは、身近で不幸な老人の生活を見たり聞いたりするにつけ、なんとかしてそういう人たちを助けてあげたいという気持ちで自然にわいてくるからでしょう。

敬老の日は、こうした世論を背景にした設けられたものであり、国民年金の中に老齢福祉年金制度を盛りこんだのも、お年寄りから少しでも楽しい生活を送っていたくためといえます。

日本人の寿命はたいへん伸びてきました。将来も、い以上に伸びてゆくと予想され、人口構成の急速な老齢化が進んでいます。

また、「核家族」ということがよくいわれますが、これは、家族構成が夫婦と子どもに限られ、祖父母は別に独立した生計を営むというところを意味しており、今後こうした傾向が強まることは十分予測できます。

したがって、老人問題はどうしても社会全体で解決してゆく必要があるわけで、年金制度は、その対策の中心をなす制度として生まれてきたわけです。

となります。

現在、わが国で公に実施されている年金制度としては、この国民年金のほか、会社や工場などに勤めている人の加入する厚生年金保険、公務員や農協職員が加入する各種共済組合など、あわせて八種類がありますが、いま、あなたは確実にこれらのうちのどれかに加入しているでしょうか。

明治四十四年四月二日以降に生まれた二十歳以上の人で、もしも国民年金に加入していない人があると、その人は、こんど七十歳になっても老齢福祉年金がもらえないことをご存じでしょうか。

また、公的年金受給者やその配偶者も国民年金に加入していないければ、国民年金はいっさい支給されず、むろん七十歳になっても老齢福祉年金はもらえません。

「敬老の日」に当たって、老人福祉問題を考えてともに、年金制度の意義を再認識し、自分が加入している年金、あるいは加入しなければならぬ年金制度のしくみをよく知ってください。

敬老の日 の菓子

十五日は敬老の日、この日から二十一日までは老人福祉週間です。お年寄りを敬愛し、長寿をお祈りするともに、お年寄り自身からも、生きる意欲をいっそう高め、いたたかなければなりません。

例年のように、七十五歳以上の例年のように、七十五歳以上のかたに記念菓、九十歳になったかたには記念品と祝状が景から贈られますが、川西町では小林直三さんほか三百八十人に記念菓、四郎兼高橋キイ(軍治)さん、越ヶ沢川崎ムメ(フヨ)さんにそれぞれ記念品、祝状が渡されます。

社会連帯精神を 赤い羽根共同募 金に

赤い羽根は、あなたの善意のシンボルです。国民たすけあい共同募金は、みなさんの暖かい愛持によって二十三年目を迎えることしも十月一日から始まり、昨年行なわれた共同募金世論調査によると、支持者は八五、四割で、この中にはもっと盛んにというのが二、三割もあり、あらためてこの運動の重要性、必要さを知ることができました。

これまでに協力いただいたお金は県の総額で十四億五千万円にのぼり、県内民間社会福祉事業の拡充強化に役たつてきました。

ことしの重点配分計画は、心身障害者(児)対策、こどもの遊び場設置、からだに欠陥のある人たちの救護施設設置等であり、町社会福祉協議会にも配分されて、老人、母子、身体障害者、長期療養者などの福祉にむけられます。

川西町の目標額として、一献募金三千万円、歳末たすけあい募金一千万円が決まり、近く、例年通り田村俊秀君(二十二歳)が、地域で指導的立場に立つような青年を育成するため、韓国を視察し、水害地の義援金にしてほしいと日赤分支部にて寄託。

韓国に派遣される 田村君



田村君

いよいよ三十日羽田から出発する田村君は、赤谷出身で現在町青年学級自治会長、第一回のこの派遣(一行二十人)は約一週間韓国に滞在し、仁川、慶州から釜山などを訪れる予定、帰国は来月七日大阪着となっている。

「善意の告知板」 水害地に愛の手

その一
神社町 吉楽 幸子さん
西頭城郡青海町の水害地に町社協あてに衣料品一箱みを寄託。その二
木島 とも子
廃品集めをして得た益金千五百円を、水害地の義援金にしてほしいと日赤分支部にて寄託。



前のページ、議案関係の記事でふれたように、第六回町議会臨時会で設置が決まった仙田へき地出張診療所(上の写真)。

辺地の医療対策 仙田へき地出張診療所

長期間、登坂塚茂先生が医療を一手に引き受けてくださり、その登坂先生がなくなり、その後継地区と呼ばれている仙田の、その医療対策のひとつとして、町立診療所が廃止になり同じ建物に新しい看板が掲げられました。

「区及び地方公共団体は、病院又は診療所が不足している地域について、計画的に病院又は診療所を整備するよう努めなければならない。」という医療法第五条の二の規定に基づいて設置した診療所運営についても、任務、診療、使用料や手数料、あるいは特別会計の設置など、いずれも町の診療所条例を準用して九月一日からスタートしたわけですが、もともと、医師の補充が不可能であるため開設されたわけで、さしあたって金曜日出張診療を行ない、水曜日の、千手診療所まで患者輸送をする計画で行なわれました。

広報フレッチ

交通事故から守ろう

「子どもを」

さる七月二十一日から八月二十日までの「夏の交通事故防止強調月間」。強調月間でありながら、この間、十日町警察管内の交通事故による死亡者は三人に達し、県下でも上位を占めました。

これを一月から累計すると九人になり、昨年一か年間の八人という数字をすでに上回りました。

もし、ここで交通事故防止対策の手をゆるめるようなことがあると、ますます事態が悪化するといふので、警察では、さらに九月にはいつ一日から十日まで、交通事故防止強調月間を実施しました

これは一応の成果を収めました。が、九月というのは新学期が始ま



(写真—車のラッシュで危険がいっぱいの大通り)

ったばかりの月であり、特に、これからは子どもたち自身、学期初めの繁張りがゆるむのと同時に、農繁期で家庭の注意も行き届かない時期に向かいます。

交通事故を原因別にながめてみると、保護者の不注意によるものがひとりと遊び、飛び出し、または自転車に乗っている際の合区不履行などが目につきます。

子どもを交通事故から守るといふことを重点に、それが、ひいては地域全体の交通事故絶滅につながるよう、みなさんご協力をお願いします。

また、十月にはいけると六日から十日間、秋の交通安全運動が展開されることもあり、事故防止の心構えが、くり返しみなさんの日常生活に浸透するよう啓発しあってください。

愛のともしびを ありがとう

六・七・八の三か月にわたってご協力をいただいた愛のともしび募金が、総額で三十二万三千二百円に達しました。

その結果、町全体で七十二の防犯灯が取り付けられることになり、近日に係員あるいは業者がわづかがいして、町内から具体的なご指示をいただく予定です。

〈町内(部落)別募金額〉

- 中島町四千五百円、山野田四千五百円、発電所通り五千円、永公西千七百円、永公東七千円、下平六千円、四郎兼三千二百円、東誓寺四千五百円、上町二千三百三十円、中央町三千四百五十円、田中町二千円、神社町三千七百円、学校町五千七百五十円、中屋敷四千六百円、寺尾三千九百円、木島四千五百三十円、木島公舎七百円、注立九千四百円、伊友七千七百円、高原田三千八百円、坪山四千九百円、稲条四千五百円、鶴吉一千五百円、平見四百円、上野一万五千五百円、元町一万三千五百円、新町新田九千円、下平新田九千二百円、三領二千九百円、小根津千六百円、聖名新田三百円、木落九千五百六十円、寺ヶ崎七百円、塩辛千七百四十円、仁田一万四千六百円、原甲三千三百円、根梨二千六百円、下原二千円、甲仙田一万二千七百円、室馬一万一千五百円、小脇二千四百三十円、高倉六千六百円、霧谷二千二百円、田戸三千四百円、越ヶ沢四千円、大倉三千七百円、大白倉四千七百六十円、小白倉五千円、熊志家寄付(二十人)九万三千五百円。

民俗資料集め

おれとお願い

本紙七月号で民俗資料の収集についてお願いしたところ、たいへんなご協力をいただいて、貴重な品をたくさん入手することができました。



県大会で準優勝 8月24日岩室で行なわれた県青年大会の卓球競技、中魚代表で出場した川西チーム(渡辺一治郎監督、選手丸山正次君のほか6人、写真は、西津、西淵、岩船、燕に勝って決勝に進んだが、長岡に3対1で敗れ惜しくも第2位。

おもな品

かこ(舞り物)、荷車、矢立て、鏡箱、古文書(誓箱)、寺子屋教本、絵紙、がん具、織機、さいふ衣類、箱せん(膳)、道具類、農具など。

寄贈者の氏名

登坂こま(神奈川)、星名佐藤治(上野)、五十嵐茂七(野口)、水品忠雄(三領)、藤本秀雄(伊

お寄せいただいた品は、とりあえず、徳徳寺さまの厚意で旧観音堂に保存することになり、先日、そこに「民俗資料保存室」の看板を掲げさせていただきました。目下、藤本秀雄先生の手をわすらわして整理記録中ですが、収集について、まだまだご協力を得たく重ねてお願いいたします。

戸籍の窓から

うぶ声—おすこやかに

- 小林登美子 英男 三女 中屋敷
- 高橋 幸子 重信 長女 高倉
- 屋名かない 四郎 長女 上野
- 村越 美鈴 昭男 長女 野口
- 丸山ユカリ 秀夫 長女 原田
- 相崎 邦夫 克己 長男 津立

たかさこ—二円満に

- ◎新郎 南雲 貞夫 中央町
- ◎新婦 中込 哀子 山梨から
- ◎新郎 清水 一夫 上野
- ◎新婦 中村ハルエ 坪山から

昇天—ごめい福を祈る

- 高山 純子 発電所通 二九
- 山田 徳蔵 仁田 七三
- 高橋 廣次 学校町 八〇
- 佐藤藤太郎 野口 八〇
- 高橋 ミ子 田戸 八四
- 藤巻 ミヨ 塩辛 八五
- 小川 キミ 赤谷 九二

太田白南風選

軒巻るる朝顔大きく昨日の花
元町 金子 鉄舟
話すこと多き日傘の肩ならへ
大倉 金子 洋石

短歌

秋巻し蝶もみあふて高窓へ
晩年を土に親しみ虫を聞く
小白倉 江口 凡石
長西に伏す日まわりをあわれとも

かわにし 俳壇

松風聖 南雲 又峯
秋巻し蝶もみあふて高窓へ
晩年を土に親しみ虫を聞く
小白倉 江口 凡石
長西に伏す日まわりをあわれとも